

埼玉県は災害に強い地域と思われがちですが、地震や大雨によるライフラインの途絶は、どこでも必ず起こります。

東日本大震災では、福島県から2,000人も被災者を埼玉県は受け入れました。

平成28年には、埼玉県と災害支援の協定が締結しておりますので、具体的な助産師会の動きについて、支援員の登録につきましても声掛けを行なってまいりました。会員の皆様のご協力により、目標の支援員人数100名に達しましたこと本当に感謝しております。

マニュアル作成につきましては、埼玉県との話し合い、会員への説明会、各地区のブロック会での話し合い、など努めてまいりました。

県との協定書ではありませんが、災害時の支援活動に関しては、市町村とのつながりが大事であるということを知らせていただき、地区助産師会の存在の重要性を感じております。マニュアル配布にあたり、各地区行政へのご説明と顔の見える関係作りをお願いしたところ、いくつかの市町村は助産師会の動きに興味を持ってくださいましたこと、嬉しく感じました。今後ともご挨拶を続け、関係づくりを行っていくことが大事に思います。

災害対策委員会でも安否確認訓練、研修会開催、日本助産師会北関東災害対策室との連携、埼玉県小児周産期リエゾンとの訓練参加、埼玉県災害対策本部の訓練等引き続き行ってまいります。本年度から100名となりました災害時支援員の連絡網を作成し、災害時の支援依頼も含め、支援員連絡網の訓練も行っていきたいと考えております。災害時は会員の皆様の動きが大事であり、会員への働きかけに力を入れていくと共に、行政との連携や訓練、平時からの災害時会議に参加ができますよう、外部への働きかけも行っていきたいと思っております。



埼玉県助産師会災害対策委員会 研修風景



共催：埼玉県立大学



世界で2位となる出生率の少ない日本は、災害時母子について目が行き届かない傾向にあります。また健康であると思っている母子は、ひっ迫した災害時の避難所では、マイナートラブルと感じる症状を訴えてはきません。

コロナ禍で、自宅で早産となり児が亡くなってしまったケースもある中、母子は、適切な対応を知っておけば救える命ということです。母子の特徴を知り、平時からの準備を整えておくこと、そして災害時はスムーズに支援を開始できるよう学びを深めていきたいと思っております。貴重な児、命の大事さ、母子を守る必要性をお伝えしながら、ママ自身や皆様の母子への意識が変わっていくことを願っております。

今後ともどうか皆様、よろしくお願いいたします。

(災害対策委員会 委員長 増子 麻里)

研修取材

「災害時母子を守る体験講座」

開催日時：令和5年10月7日(土)
 研修担当：災害対策委員会
 講師：あんどう りす 先生

■研修内容

- 1、防災につながる日頃の準備、ARやVR、水圧体験
 - 2、災害時に役立つアウトドア対応、安全な移動方法
 - 3、「教えてドクター！」アプリの活用方法
- について講義をして頂きました。



あんどうりす先生 プロフィール

兵庫県立大学大学院
 減災復興政策研究科 博士課程
 アウトドア防災ガイド 新建新聞社
 リスク対策.Com 名誉顧問
 Yahoo個人ニュースオナー
 女性ネットワーク東京呼びかけ人
 FM西東京 防災番組 パーソナリティ
 長野県佐久医師会
 「教えてドクター！」プロジェクトチーム

ARやVR、水圧体験をし、浅い水の中を歩くことが想像以上に危険であることを実感しました。携帯トイレや簡易トイレ、その他防災用品を実際に使用してみて、いざ使用する際に使用方法が分からなかったり、間違った方法で使用してしまった場合大変危険になるため、使い慣れておく必要があることを学びました。さらに、災害発生時、まずは安全の確保と低体温予防に努めること、防災ツールなどを活用して普段から情報収集を行い、日頃から備えておくことが大事であることを改めて学びました。

また、避難所で生活する母子に対して、誤った情報（ゾンビ情報）や昔の価値観などの不的確なアドバイスをすることで混乱を招く恐れがあります。私たち助産師は乳幼児の保護者にとって身近な存在であり、知識を持った専門職でもあります。まずは相手に寄り添って傾聴し必要な支援についてアセスメントし、今まで通りの授乳や育児を安心・安全にできるように援助を行っていく必要があると学びました。

(川越地区 佐藤 由紀子)

